

株式会社 百五銀行

個人投資家さま向け会社説明会（2026 年 9 月 16 日）における主な質疑応答

【質問 1】

Q. 名古屋銀行や大垣共立銀行と比べて株価が低く見える。収益力に対して株価が低いのではないか。配当増額や自社株買いをもっと検討すべきではないか。

A. 株価の単純比較には注意が必要です。当行は 50 円額面である一方、他行では株式併合や分割を実施しているところもあるため、表示される株価の単位が異なります。よって、額面を考慮すれば、1 株あたりで見劣りしているとは考えておりません。自社株買いにつきましては、2024 年 3 月期からコンスタントに 25 億円程度の自社株買いを行っており、今後も機会があれば検討してまいります。

【質問 2】

Q. 「百五」という名称の由来は何か。

A. 明治期の国立銀行制度のもとで第 105 番目に設立された銀行であったことが由来です。

【質問 3】

Q. 東海地区で金融機関の統合が進む中、百五銀行は今後、他行との統合や提携をどう考えているのか。規模拡大も重要ではないか。

A. 再編については無関心というわけではなく、規模拡大による収益機会や合理化効果は認識しています。一方、従業員・顧客・株主など全ステークホルダーにとってメリットのある再編であることが重要と考えています。常にシミュレーションはしていますが、相手方の意向もあるため、まずは自分たちでできることをスピード感をもって進める方針です。

【質問 4】

Q. 金利上昇で各金融機関の収益が改善する中、どのように差別化していくのか。具体的な取り組みを教えてください。

A. これまで積み上げてきた住宅ローンなどは変動金利が多くを占めており、昨今の金利上昇により収益に寄与しています。また、国債等についても保有資産の入れ替えが可能な点が特徴となっています。ただし、これらが将来にわたって続くわけではなく、今後の差別化が重要であると考えています。最大のポイントの一つは預金をどのようにして確保するかです。株式・債券・投資信託など魅力的な金融商品が増えるなか、預金獲得は金融機関共通の課題となっています。当行は 2019 年からスマホバンキングを開始し、個人の預金口座のデジタル化を推進しています。それにより決済機能を当行にお持ちいただくことで、預金が根付く「粘着性」を高めることができると考えています。また、現在はスマートフォンで操作ができる法人向けバンキングアプリも開発中で、法人預金の囲い込みにも取り組む方針です。

【質問 5】

Q. 三重県や日本全体で少子化・若年層の結婚減少が進む中、百五銀行としてどのような対策をしているのか。

A. 非常に難しい問題ですが、何もしなければ地域人口は縮小するため、地域金融機関として少しでも減少を抑えたいと考えます。まず従業員につきましては、働きやすい環境、育児と仕事を両立しやすい環境を整備しています。また地域への寄付などにも取り組んでいます。これらの取り組みが総合的に評価され、こども家庭庁が推進する事業において「こどもまんなかりーディングバンク」に採択されました。

以上